



## バリアフリー字幕、音声ガイド、抱っこスピーカー 日本初のユニバーサルシアター

「シネマ・チュプキ・タバタ」

抱っこスピーカーを抱える、代表の平塚千穂子さん

東京・田端の商店街にある「シネマ・チュプキ・タバタ」は視覚や聴覚に障害のある人、車いすの人、小さな子ども連れなど、誰もが楽しめる映画館だ。こんな映画館が日本各地にあったら……。

**全15席。観客席は森のイメージ  
字幕、音声、振動つきで鑑賞**

「チュプキ」はアイヌ語で「自然の光」。森の中をイメージした全20席のシアターで、ドキュメンタリー映画『相撲道』を観賞した。

スクリーンの端には話者やセリフ、効果音まで説明してくれる「バリアフリー字幕」が表示される。イヤホンで聞く「音声ガイド」は行き交う人々の様子から力士の動き、身体に光る汗まで伝えてくれる。音を振動に変える「抱っこスピーカー」を抱えれば話し声や太鼓の音、力士のぶつかり合う音までが胸に響く。

ちょうど目の高さにスクリーンが来る一番後ろの席は車いすのスペースがあり、小さな子ども連れや感覚が過敏な人には、照明や音量を調整できる完全防音の「親子鑑賞室」が用意されている。「天井にもスピーカーを設置し、360度音に包まれる11・1チャンネルの『フォレストサウンド』は、アニメ『ガールズ&パンツァー』の岩浪美和・音

響監督が無償で設計してくれたもので、音響マニアにも好評なんですよ」と、平塚千穂子さん（シネマ・チュプキ・タバタの代表）は誇らしげに話す。

はじまりは1999年。高田馬場の名画座「早稲田松竹」でアルバイトをしながら、いつかは映画を人に届ける仕事をした

いと思っていた平塚さんは、「誰もやったことがない企画に挑戦する異業種交流会で、チャップリンのサイレント映画『街の灯』を視覚障害者の方に届ける」ことになった。

まずは当事者の声を聞こうと、視覚障害者の朗読グループを訪ねた平塚さんは、「映画は映像だけで語られるシーンも多く、場面転換もわかりにくい。言葉のサポートさえあれば楽しめるのに」と言われ、現状を調べ始めた。

すると、「米国や英国では、メジャーな映画が公開初日から字幕と副音声付きで楽しめるのに、日本では、地域の市民映画祭くらいでしか上映されていない現実」が明らかになった。

**最初は、映写室から実況解説も  
映画館開設に531人から寄付**

そこで2001年、平塚さんは視覚障害者に映画を届けるボランティア団体「シテイライツ」を設立。「初めは、映画館でボランティアが隣に座って小声で解説していましたが、やがて、一人が映写室から実況解説したものをFM電波に乗せ、ラジオのイヤホンで聞いてもらおうスタイルになりました。

でも、なかなか事前に十分な準備ができなくて、解説する人の解釈に頼っている状態でした」

そのうち、大手映画会社が字幕や音声ガイドを手がけるようになり、16年には、それらを表示・再生できる「UDCast」というスマホアプリのサービスを始めたという。

「そうはいつても、外国映画やドキュメンタリー映画、ミニシアター系の映画ではまだまだ対応が遅れていました。私たちの中にも、

音声ガイドのボリューム調整器を全席に設置



『今日映画観たいな』と思った時に誰もがふらっと立ち寄れる映画館がほしいという夢がだんだん芽生えてきて、自分たちのシアターをつくることにしました」

16年に物件を見つけ、クラウドファンディングで資金を募ると、3カ月の間に531人から1880万円が寄せられた。

「この映画館を障害のある当事者の方はもちろんですが、映画ファンの人たちにも知ってもらいたかった。私自身も、誰にも相談できない悩みを抱えていた時、映画に人生を救われた経験があります。『大好きな映画を観たいのに観られない人に届けたい』という気持ちが一歩強い映画ファンの方々が『自分たちがお世話になってきた映画に恩返しをしたいから』と、たくさんの方の支援をしてくださりました」

平塚さんがここで目指すのは「サポーターする側とされる側ではなく、『この映画すごいから観

て!』と友達のような感覚で勧める、映画を介したフラットな関係」だ。寄付者と、その後の劇場運営を支えるサポーター会員の名前は葉っぱに刻まれ、劇場入り口に「チュプキの樹」として枝を広げている。

### 字幕や音声ガイドの制作を支える20〜30人のボランティア

上映する作品は月に6〜8本。「国際カムフラグアウトデー」のある10月には、LGBTQの特集を組むなど、「社会的マイノリティに光を当てた作品」が多い。訪れる人もさまざまな背景をもつ。

「目が見えなくなっただけひきこもりがちになった男性に生きる希望を見つけてほしいと、家族が連れてきたこともあり、ユニバーサルシアターと知らずに来た中学の社会科の先生が、盲導犬を連れ

たお客さんを見て驚いて、帰りにいろいろ質問し、サポーター会員になってくれたこともあり。学校でさっそく生徒たちにも話し、広めてくれたようです」

も、無償とはいえ、ここで夢を実現しているという。たとえば『相撲道』の音声ガイドは、平塚さんが「押し出しと寄り切りの区別もつかない」ところから相撲入門を読んで勉強し、プロの実況アナウンサー小笠原聖さんにアドバイスを受けながら台本をつくり、声優を目指してきた男性がナレーションを務めたものだ。

「自分たちの映画館をもってからは配給会社とはビジネスパートナーになれたので、制作会社や監督の許可をいただき、映画の台本や資料を貸してもらえようになりました。それでも作品切り替え前は徹夜になります」

「ユニバーサルシアターをやってみたいという方もたびたび訪れま

る。20〜30人のボランティアが支えている。「シテライツの創設時から」

「ユニバーサルシアターをやってみたいという方もたびたび訪れま

る。20〜30人のボランティアが支えている。「シテライツの創設時から」

「ユニバーサルシアターをやってみたいという方もたびたび訪れま

俳優や声優を目指してきた人や映画にかかわってみたい人が

俳優や声優を目指してきた人や映画にかかわってみたい人が

前後左右、天井にも配置されているスピーカー



完全防音の親子読書室は誰でも利用可



シネマ・チュプキ・タバタ  
営業時間 10時〜20時（水曜定休）  
住所 東京都北区東田端 2-8-4-1F  
電話 03-6240-8480  
ホームページ <https://chupki.jpn.org>

VOL.400  
2021.2.1  
¥450

# THE BIG ISSUE

Sample



## 希望へ

スペシャルインタビュー 奈良美智

英国、米国、ドイツからの報告